岩手大学次世代アグリイノベーション研究センターシンポジウム

野生動物との共存を地域でどう実現するか
ー 獣害対策の社会実装と次世代の担い手 ー

日時　2027年2月22日（月）13：30～17：00
場所　岩手大学教育学部１号館　北桐ホール
※オンライン配信（Zoom）あり

プログラム

13:30-13:40
開会挨拶
下野 裕之（岩手大学次世代アグリイノベーション研究センター長）

13:40-14:10
これからの地域社会のための獣害対策
山端 直人 氏（兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授）

14:10-14:30
お金をかけずに声をかける―山でも里でも変わらないこと―
西　千秋 氏（合同会社岩手野生動物研究所 代表）

14:30-14:50
岩手県大槌町での官民連携による鳥獣対策
福島 良樹 氏（大槌町 職員）

14:50-15:10
岩手のクマ対策を支える―県の取組と専門研究員の役割―
渡邉 颯太 氏（岩手県自然保護課 専門研究員）

15:10-15:30
「安全」から「共生」へ持続可能な獣害対策の事業化：「クマップ」
服部 悠大 氏（株式会社BearBell 代表取締役）

15:30-15:45
質疑応答

15:45-16:00　休憩

16:00-17:00
パネルディスカッション
原科 幸爾（岩手大学大学院連合農学研究科 教授）

近年、クマの出没をはじめとする野生動物による被害の深刻化を背景に、人と野生動物との適切な距離感や共存のあり方が改めて問われています。本シンポジウムでは、地域ぐるみの獣害対策やICTを活用した社会実装の取組、さらに次世代を担う若手実践者の挑戦に着目し、研究成果を地域の実践へとつなぐこれからの野生動物管理のあり方について考えます。

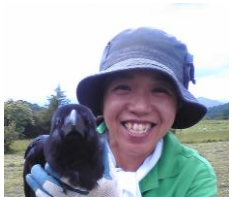
講師プロフィール

山端 直人（兵庫県立大学 教授）



兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授。博士（農学）。
1993年農林水産省入省。三重県庁を経て2017年より現職。専門は農村計画学、野生動物管理。
獣害を野生動物の生態と農業・地域社会の関係から生じる課題として捉え、その解決に向けた研究と実践に取り組む。アクションリサーチを通じて地域住民と協働し、農作物被害をほぼゼロにまで軽減した集落事例も多い。人口減少や高齢化が進む農村において、地域が主体となって獣害対策を継続できる仕組みづくりを進めている。また、獣害対策の政策起業家（Policy Entrepreneur）として、現場で得られた知見や成果を自治体の支援制度や野生動物管理政策へと結び付け、政策提案や制度設計にも取り組む。JICA専門家としてブータンでの獣害対策や人材育成にも携わり、国内外で持続可能な野生動物管理の実現を目指している。
主な著作に『これからの地域社会のための獣害対策』（農林統計協会）、『どうする野生動物管理』（共著、岩波書店）など。

西　千秋（岩手野生動物研究所 代表）



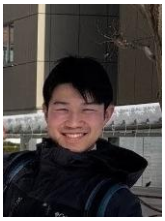
岩手大学大学院連合農学研究科修了。博士（農学）。合同会社岩手野生動物研究所代表社員。大学の卒論の際に野生動物に関わり始めてから、社会人になりたくないからと大学に在籍し続け、普通の社会人はできないからと起業し、そのまま野生動物と関わる日々に。現在は野生動物調査を行うために山に入りながらも自らの衰えを感じる日々。普段は紫波町のクマやイノシシなどの野生動物が頻繁に来る林縁部で暮らす。家庭菜園としては少し広めの畑を趣味として、とうもろこしやさつまいもなどを育てているため、暮らしの中でも野生動物対策が必須となる。クマやイノシシがすぐそばに来る場所の住民としての視点を持ちながら野生動物対策について考える日々。『お金をかけずに声をかける』をスローガンとして、自宅敷地内の特に柿や栗に来るクマやイノシシに対して「コラシステム」と名付けている追い払い方法を実証実験中。

福島 良樹（大槌町 職員）



山形県山形市生まれ。岩手大学大学院連合農学研究科修了。博士（農学）。大学では野生動物の生態について専攻し、人の生活圏に生息するハクビシンの生態について研究。2023年に地域おこし協力隊として大槌町に移住し、2026年に大槌町役場に入庁。鳥獣対策業務に従事し、クマ等の出没抑制を目的とした「協働型緩衝帯整備事業」を立案・主導。

渡邉 颯太（岩手県自然保護課 専門研究員）



岩手大学大学院修了。修士（農学）。在学中はツキノワグマの農地利用を研究。卒業後は秋田県職員（鳥獣職）としてクマ対策に従事し、2026年度より岩手県職員（専門研究員）。普及啓発のほか、市町村や警察と連携した市街地出没への対応・訓練、人身事故発生時の現地調査や再発防止対策などを担当。

服部 悠大（株式会社BearBell 代表取締役）



国際教養大学在学中に株式会社BearBellを設立。野生動物による被害を減らすことを目指し、クマをはじめとする動物の目撃情報を共有するアプリ「クマップ」を開発・運営している。自治体のオープンデータや市民から寄せられる情報を集約し、地域住民へ迅速に届ける仕組みづくりに取り組む。2026年には総務省主催「ICTSTARTUP LEAGUE」に秋田県として史上初、東北8例目の選定を受けるなど、秋田を拠点に野生動物問題の解決に向けた社会実装を進めている。

お申込み方法　＜事前申込制＞

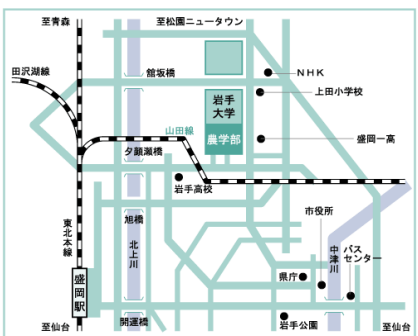
下記URLまたはQRコードから、お申し込みください。
https://forms.gle/S4Ak1ixa5NDymysf8

申込締切：２０２７年２月１５日（月）

・フォームでの申込後、自動返信のメールが届かない場合は、
aic@iwate-u.ac.jp　までご連絡ください。
・ドメイン指定受信で、@iwate-u.ac.jp（岩手大学ドメイン）を許可してください。（制限されていることがあります）

※参加費無料

＜会場案内＞



問い合わせ　岩手大学 次世代アグリイノベーション研究センター(AIC）事務局
（岩手大学 研究・地域連携課内）　aic@iwate-u.ac.jp